

「第2回中之島アゴラ構想推進協議会」 会議要旨

1 日時 平成29年2月8日(水) 午前10時から午前11時30分

2 場所 大阪市役所 市会第6委員会室

3 出席者

- ・大阪府政策企画部企画室長 吉田真治
- ・ 〃 商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子
- ・大阪市経済戦略局イノベーション担当部長 高田滋美
- ・ 〃 博物館改革担当部長 花澤 隆博
- ・ 〃 都市計画局長 川田 均
- ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
- ・一般社団法人関西経済同友会医療都市「関西」委員会委員長 更家悠介
- ・公益社団法人関西経済連合会理事・事務局長 阿部孝次
- ・国立大学法人大阪大学 理事・副学長 小川哲生
- ・ 〃 理事・副学長 吉川秀樹
- ・中之島まちみらい協議会座長 香川次朗

4 議題

- ・中之島アゴラ構想の実現に向けて

5 議事要旨

川田) 前回の協議会では、大阪大学からご提案いただきましたアゴラ構想について、経済界、中之島まちみらい協議会の皆様方において、企業の目線から見て、どういったご意見があるかについて、会員の企業様から声を吸い上げていただきたいということと、大阪大学には具体的な中身、もう少し施設の規模などの中身の掘り下げと、スケジュール感を詰めていただきたいというお話をさせていただきました。今回、これを踏まえて取りまとめをしていきたいと思っております。まず、大阪大学の小川理事から資料1の内容についてご説明をお願いします。

小川) 前回、11月17日のアゴラ構想推進協議会の際にも、8月に出した構想のご説明をいたしました。今、川田局長からもお話しありましたように、さらに検討を進める際に、より具体的なイメージを持ってもらいながら進めることが大事だろうということで、より詳しい説明、あるいは施設や人数の規模感、建物の規模感等々も含めて、大阪大学としてどんな考え方があるかということをご説明させていただきたいと思っております。【資料1により説明】

最後に、大阪大学は 1931 年に大阪の財界や市民の方の援助でできた帝国大学です。非常に出自が特殊です。普通は東京帝国大学にしる、京都帝国大学にしる、トップダウンで作られているのですけれど、大阪帝国大学はボトムアップで作られているということでありまして、大阪大学としましては、社会とのつながりが非常に大事だと思っております。我々、優れた人材、卓越した教育、研究をやっていく研究型の総合大学でありまして、文系理系も全部そろっているということです。規模としては学生数が 2 万 3 千人います。教職員が 6~7 千人いると、そういうことで、学生数も日本の国立大学ではトップレベルで大きいところです。特に学部学生は東京大学よりも多く、日本の国立大学では一番大きいという大学になっております。先ほど申し上げましたように、そういう出自ですので、特に産学連携は今までも力を入れてきて、実際に強いという評価を色々なランキングでもいただいております。トムソン・ロイター社という会社がありまして、そこが色々なランキングを出しているのですが、革新的な大学ランキングというものがありまして、要するに、産学連携で新しいイノベーションを起こしているかどうかというランキングがありまして、2015 年、世界で大阪大学が 18 位です。国内トップです。よくやっているのではないかとと思っておりますので、産学連携をさらに伸ばしていきたい、そのためにも大阪の人々と連携なり応援が必要かなと思っております。

こういう特徴を持っております大阪大学が中之島の地に部分的にも来ることによって、企業や市民が大阪大学とさらにつながって、実は大阪大学とつながるだけではなくて、全国や世界ともつながれる。それによって中之島がさらに賑わいがあるまちとなって、大阪の魅力が更にあがっていくのではないかと、我々、期待も希望もしているというところでございます。

ただ、このアゴラ構想を実現するにあたっての課題がもちろんあるわけでございます。今回説明した内容は、最初、8 月 24 日にご提案させていただきましたものをベースにしたものであって、それはやりたいこと、やれそうなことを全て描いている構想です。全てが実行できるかどうか、全て実行するべきかどうかは、議論して決めていかなければならないと思います。それからどうやって実行するかということが次の問題でありまして、建設費、維持費等々、あるいは運営費を含めた財源の確保はやはり重要な問題だと大阪大学も認識しております。大阪大学の財政事情はある程度公開されておりますので、ご存知と思えますけれども、今の日本の国の財政状況からして、高等教育に対する増加分というのはほとんど見込めない。今後何十年も下がっていく一方ではないかと、そういう中で産業界とのつながりで高等教育、研究を維持し、かつ世界に打って出なさいというのが、国の我々大学に対する期待でありまして、お金はないけれどがんばれよと言われておる、そういうことなので、ぜひ皆様の協力の中でやっていきたい。

大阪大学としまして、中之島のための寄付金集めというものも開始しております。中之島の再開発事業あるいは、医学伝習 150 周年記念事業という募金活動を開始したところでありますが、それでも先ほど申し上げましたような、アート拠点が 4,000 m²、産学共創クロスイノベーション拠点が 10,000 m²、共用部分を入れて 20,000 m² くらいの規模の建物を建てようと思いますと、60 億とか 80 億とか 90 億円とかいうような費用がかかってまいります。募金だけで多分 90 億円集まるはずがないと思っておりますので、協議会の場で是非皆様のご意見踏まえながら検討をしていただ

ければと思っております。

なお、最後ですが、大阪市の今回の 12,000 m²の土地ですが、アゴラ構想の大本は、全体の 12,000 m²で大阪大学がやることができるのか、というお話で色々な検討をいたしましたけれど、60 億円だ 90 億円だというちょっと手の届かない話になってくるとも避けなければいけないので、大阪大学としてはまず先ほどのアート拠点、あるいは産学共創クロスイノベーション拠点というのは、大阪市新美術館の西隣、大阪大学中之島センターの南隣のあたり、そこに産学共創クロスイノベーション・アート拠点というものをまずはやっていって、それがスタートかなと思っております。西側の残りの 7,500 m²部分は再生医療国際拠点候補地と書いてありますが、大阪大学は関心が無いという意味ではありません。色々な懐事情を許せばもちろん関心はあるのですけれども、現実性を考えますと、まずは第一歩としては新美術館の西隣の 4,500 m²ぐらいでスタートするような議論が適切でないかと思っております。以上でございます。

川田) 大変わかりやすい説明をありがとうございました。最後に小川先生がおっしゃったアゴラ構想の展開の関係で 4,500 m²というのは、その通りと我々も認識したいと思います。

まず、今ご説明があったことに関して、何かご質問があればお受けしたいと思います。

更家) 今、小川先生がおっしゃった大阪市の土地の部分ですが、昨今の国の財政状況や府市の財政状況から見ても、大阪大学がやるということは国の予算が入ってくるとは思いますけれども、それを許すことができないので、基金なり民間の拠出も含めてやろうということです。私どもが先日の提言でも触れた西隣の 7,500 m²の土地のことをおっしゃったのですが、例えばここをもう少し大阪大学も協力するけれども、運営主体を分けて、民間のイニシアチブでやりながら、先ほどのクロスイノベーションの一部をやるとか、再生医療のことも入れていただきながら、イノベーションの協力をするとか、こういうことについてのご意見はいかがでしょう。

小川) 西隣の 7,500 m²の部分、今私も申し上げましたように大阪大学全然知りません、勝手にしてくださいという意味ではないです。そこに何らかの施設が何らかの手段で建ちますと、すぐ隣に中之島センターがある、美術館がある、あるいは産学共創クロスイノベーション拠点があるということですので、そこはぜひ色々な中身的なことでは協力していきたいと思っております。

川田) 全体の考え方の中で小川先生がおっしゃったとおりのことだと思っておりますし、中之島 4 丁目再生医療国際拠点検討協議会の場とで、どういうスキームとしてやっていくかは分けて考えていけないと思います。それぞれで一度どんなやりかたができるかというのは考えてみたいと思っております。

更家) 大阪大学もある部分は民間と協力して、ひとつは主体的に、ひとつは協力的に、いわずにこういった機能を実現していこうということによろしいのですよね。

小川) 表現としてはそれで結構なのですが、主体的の部分が本当に主体的にできるかどうかはわかりません。そこは協議会での議論のひとつだと思います。

更家) 大阪府市もこういった具体的な再生医療とか、国際医療を特区を活用してやろうとか、もしくはインバウンドを増やそうといった色々な戦略があるなかで、公的な土地の活用という議論が出ていると思うのです。そういった意味で、大阪大学の主体的にやっていただける部分と協力的にやっていただける部分はある程度クリアにしないと議論が進まないと思いますので、アゴラの協議会の中でもクリアにしてやっていった方がいいのではないかと考えております。

川田) 再生医療の件は、次回の中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会で議論しますので、その際にお話しただければよいと思いますけれど、主体というのを誰がやっていくのかというのはこれから議論していかなければならないと思いますので、それは再生医療の協議会の中で議論したいと思います。

更家) この大阪市の土地は入り組んでいるので、分けて考えるとしても、一方がブラックボックスのままにはできないと思うのですけれども。

川田) ブラックボックスのままではなく、分けて考えましょうということによりよくお願いします。

阿部) 産学連携はイメージが湧くのですが、アートの部分で学生が日常的に学ぶという、この学生は大阪大学の学生というイメージなのか、色々な大学から学生を集めてというイメージを持たれているのか、というのが一点と、施設イメージの写真のブラックボックスですが、写真を見る限り観客席のようなものがありますが、アートについての研究だけなのか、一般開放的な部分もイメージされた施設なのか。どちらかというとな産学連携はオープンイノベーションとかそういうこともありますけれど、一般的な人と触れ合っている場ではないというものに対して、ここのアートの方が、一般市民あるいは観光客との接点みたいなものを含めた施設なのか、あくまでもそういう分野に関係ある人たちの施設なのか、教えていただけますか。

小川) まず、最初の学生のこと。学生と言っている以上は学籍が大阪大学にある学生になるのですが、基本的には文学研究科のアートをやっていただいている研究室あるいは専攻があります。規模的には何百人という規模ではないのですけれど、そこは先生も大学院生も来てもらうことを、文学研究科も前向きに検討してくださっているというのがひとつ。それはいわゆる普通の学生。先ほど申しあげました社会人との関係で、やはりキュレーターの養成とか。隣が新美術館になりますので。ただの現状のキュレーションだけではなくて、新しいキュレーションを新美術館に働いてらっしゃる学芸員の人とやっていきたい。研究していきたい。それは研究だけでなく、実はキ

キュレーターの人たちの教育にもなって、社会人教育の一部かもしれませんが、そういうことも考えています。それからいわゆるもっと一般的に、公開講座的なことをやることで聴講生にきていただく。広い意味では学生かもしれませんが、わりと一般的な社会学連携的な意味があります。我々が一番決断しようと思っているのは、文学研究科の一部を持ってこようということです。

それからブラックボックスですが、ただの練習場ではないです。演劇とかパフォーマンスをやる場所、練習もしますけれど、そこで公開もしていくということでありまして、できることなら観客席。もちろん何百人は入らなくて結構ですが、小さな芝居小屋みたいなイメージの機能も持ちたいというように思っています。

更家) 具体的なオープンイノベーションのところで、極めて具体的にユニットというものをお考えになって、10ユニット程度だということですが、このあたりの内容がある程度クリアになれば参加される企業も出てくると思います。どのような形で参加していただくとか、場所借りとか施設の費用の拠出条件など、予算を企業が想定できるので、具体的にそういうところを詰めていただくと声もかけやすいし、内容的にもいいかなと思います。最近ネーミング権で1億も2億も出される企業があります。演劇とかアートのところは即収入につながるかどうかかわからず、余程余裕のある企業でないといけないと思いますので、こういうところもぜひお探しいただければ可能性ゼロではないと思います。

小川) もう少し詰まっていったら、どんな内容があるかとかはまた提案させていただきます。

川田) 今回のアゴラの中で何が尖っているかというところ、アートの部分と今のブラックボックスとかホワイトキューブ、アーティスト・イン・レジデンスもそうですけれど、産学連携も尖らせないといけないと思っていて、その中で共同研究ユニットにRCAの強みの「光」「物質」「インダストリー」など書いてあるのですが、その尖り部分を際立たせていただいて、それで経済界の方々、企業のご関心を集めていただいて、これなら企業も産学連携やろうというものを組み立てていきたいなと思っていて、それは今日以降、来年度を含めて詰めていきたいなと思っております。そうすると、またフォローしていただきたいのですが、産学連携に関しては国の予算でも色々施設ものに対する支援や、研究に対する支援もあると思うので、そういうものが最終的に拠点形成の一部に費用として回せるような可能性も出てくると思いますので、産学連携のところを具体的に進めていければと思っています。そんな方向はどうでしょうか。

吉川) 今、企業と産学連携で、企業の名前がついた共同研究講座をどんどん立ち上げているのですが、もう吹田キャンパスはいっぱいになっていて、ぜひ関西の企業の方にはこの中之島に会社の名前のついた共同研究講座を設置していただいて、ここで企業間の連携も含めて、研究者と複数の企業が集う場として発展させていきたいと思っています。もちろんレンタル料は平米幾らということを設定して入っていただいているのですが、吹田キャンパスはいっぱいで企業

の方が待っている状態です。ですので、中之島にできましたら、そういった形で発展させていきたいと思っています。

児玉) 今の話と関連したことですけれど、やりたいこととやれることを見直していかないといけないというお話がありましたけれど、まず中之島4丁目の地価の非常に高いところでやっていくときに、産学連携は今吉川先生が言われたように、企業も吹田がいっぱいになるくらい関心をお持ちで、中之島でやっても企業と組めそうなニュアンスで受け取ったのですが、そういう中で文化関係の施設、ネーミングライツもあるのかもしれませんが、文学研究科の方ですでに検討が始まっているというお話でしたけれど、そこを優先される、都心に持ってこなければならぬ理由は何でしょうか。

小川) 文学研究科を持ってきたいということがスタートラインではなくて、アートとかカルチャーという部分をまちの中心に持っていききたいというのが大本の考え方です。すでに4丁目には科学館があり、国際美術館があり、今度新美術館が建ち、ヨーロッパの街並みを見ましても、まちの中心地に大学のライブラリーがあつたりとか、シアターがあつたりとか、ミュージアムがあつたり、そういうまさに文化の中心でありたい。そうすると、美術館が今度隣に建ちますので、アートというキーワードが出てきて、アートだったら大阪大学でしょう、というストーリーで、ぜひあの辺で、というかあそこしかないと思います。アート拠点を作るのは。例えば“うめきた”はどんなのだという話をよく聞かれるのですが、“うめきた”は簡単にいうと駅前です。中之島は中心というイメージです。中心には中心たるもの、駅前には駅前に則したもの、みたいなイメージで我々は区別しています。どちらも大阪大学、興味あるのですが、中之島は中心として、すでに美術館、科学館と実績があるということもあって、アートは産学連携とは別のストーリー、切り口が必要ではないかと思っています。

川田) 我々、中之島4丁目には昔からこういう構想を持っており、ここは舞台芸術センター構想がございました。ホワイトキューブ、ブラックボックスは、まさしく大阪市がやろうとしていたことですので、文化の中心ということを継承していただいて非常にありがたいと思っています。大阪市の文化担当もおりますので、新美術館が来年度から設計が始まって実際に動いていきますけれど、そういった箱もの話と合わせまして、アートの連携に関して我々としてどういったことが考えられるかということをお話しいただきたいと思っています。

花澤) 今ご案内のありました新美術館は、昨年来コンペをしておまして、先週2日に最終コンペをしまして微妙な時期なのですが、68点の応募があつてその中から5点を選んで、その5点のコンペをオープン形式でさせていただきました。どの提案も小川理事がおっしゃったようなアートの拠点としてつながりが必要だと、物理的にも2階レベルでつながれるような提案になっていますし、あわせて今お話のあつたような人的なつながりもできるということで、色々な新たなイノベ

ーションがうまれてくるのかなと思っています。国立国際美術館と科学館で、それにあわせてアゴラ構想のアート拠点で、このエリアが、大阪市がもともとミュージアムアイランド構想と言っていたのですけれど、一大アート拠点になれるのかなということ。それと、大阪大学の世界とつながるネットワークというの活用させていただいて、新美術館でも年間 60 万人ほどの観客を予定してまして、その中にはもちろんインバウンドも入っていますので、そういった大阪大学の世界ネットワークも使わせていただきたいなと思っています。美術館は動きがないというものなのですが、ここで演劇とか動きがあるような芸術活動とともに、学生が常時来てくださるということは、若い学生の育成とか我々の学芸員になってくれるようなキュレーターの育成もしてもらえるとということで、すごくありがたい話と思っています。オープン時期もオリンピックの次の年の 2021 年ということで、このアゴラ構想の施設のオープンの時期と大変近いということで、あわせて発展できたらと思っていますので、引き続きよろしくをお願いします。

川田) 先ほどの産学連携の話になりますけれど、大阪府の池田様、ライフサイエンスのご担当ですけれど、産学連携において中之島の大阪大学に期待することや、今実際に産学連携をやられていて感じておられることなどあれば。

池田) 全ての分野をコメントする立場にないということをご容赦いただいた上でなのですが、大阪大学とは色々な関係で工学部ともお付き合いがある中で、先ほどおっしゃったように、吹田キャンパスが産学連携の共同研究ラボとかも本当に目一杯というのも実感として存じておりますし、そういった中で今後の展開ということで、直接的には隣の再生医療国際拠点がメインにはなるのですけれど、こちらの産学共創クロスイノベーション拠点にも当然関心があります。物理的にはパンパンということはそのとおりなので、その需要はあるだろうということも理解はできるのですが、ただ吹田キャンパスがいっぱいだからということだけではなく、中之島のクロスイノベーション拠点でこそやるべき研究テーマとか、例えばのアイデアですが、医学部とか法学部とか関係なしに学部横断的な、複数の学部に係るようなテーマを優先的にやっていく、そういう風な特色づけをすることによって、吹田キャンパスでできないことをここだからこそできる、あるいは隣の再生医療国際拠点の中にもおそらく共同ラボというような機能が入ってくるのですけれど、そこもまた違う、ただクロスイノベーションなので、隣ともそうですし吹田キャンパス本体ともそうですし、そこはすべてクロスイノベーションで、新たなイノベティブなことがうまれる、育てていくという、そういう風なイメージですみわけと連携が具体的に見えてくると期待がより膨らむかなと感じます。

小川) おっしゃるとおりだと思います。吉川理事が申したように、産学連携、今頑張っています。しかも今後のニーズも高い部分があって、施設の面だけで言っても我々のキャンパスいっぱい。だからこそ中之島を使うというストーリーではなくて、中之島だからこそやれる産学連携の特徴はやはり出していきたい。大阪市にある地元の企業と組んで応援していきたい、というス

トリーだと思えます。北摂ですと大企業にきてもらうというイメージに取られるのですけれど、こちらはここにある企業と組んで大阪を強くしていきたい、そんなことも思えます。それから距離的には北摂よりも近い可能性が高いわけで、一企業対一大学というスキームだけではなくて、例えば水平的に協調できる業種などの、多企業対大阪大学というやり方の産学連携なども模索できればいいかなという風に思っています。

吉川) 池田課長の言われたように、再生医療も西の方で計画がありますので、再生医療関係の共同研究講座とはそちらと連携できると思えます。東側の4,500㎡の方は美術館にも近いということで、文化・芸術のエリアとして、産学連携でも医療と関係のない企業を集めていった方がきれいになるかなと思えます。全部入り乱れているというのではなくて。ですから、一番西側はもし再生医療センターなどが来たら、その関連の共同研究講座はそちらに連携して入るとか、東側は芸術・文化とか医療ではない産学連携の企業に入っていただくというすみわけはこれから考えていく必要があると思えます。

川田) ありがとうございます。まちみらい協議会の香川様いかがでしょうか。

香川) あらためて今日小川先生の構想を踏み込んで話を伺って、私どもの協議会の立場から、構想に向かって期待が膨らんでいくという気持ちで聞かせていただきました。一点ご質問させていただきたいのですが、資料1の5ページの産学共創の経営体制のところ、具体的なイメージとしてスタッフ構成を提示されているのですけれど、産学連携支援員とプロデューサーとテクニシャンというのが、イメージの差がわかりづらかったのですが。

小川) まずテクニシャンというのは、まさしく技術員です。実際に物を作るワークショップが作れるかどうかは確認しますが、技術的な人がいて試作品を作るとか、ということのための技師です。それから産学連携研究プロデューサーはプロデュースする側ですので、コーディネーターみたいな役割。大阪大学のシーズをちゃんとわかっていることと、企業側あるいは社会側のニーズや課題がわかっていることと、そういうものを相互につなぐ、あるいは大阪大学側からいうと営業に行くという機能は必要ではないかと。ただ待っていて来てくださいというだけではなくて、売りに行くと言いますか、そういうことをやっていく。産学連携支援員は事務職です。特許や知財をつかさどっていただく、そんなイメージですが、職名の名称はフィクスしていませんけれど、そういう人は必要だろうという風に思っています。

香川) そうすると支援員、プロデューサー、テクニシャンというのは大学の関係者ということだけではなくて、広い対象の中でこういう構成が必要だという理解でよろしいでしょうか。

小川) はい。

香川) わかりました。

更家) 先ほど花澤部長が言われた文化の中心というのは大賛成なのですが、私、昔大阪府の万博記念公園の運営審議会委員をやらせていただいたことがあります。例えば万博記念公園にも民族学博物館とか、民芸館とか太陽の塔を世界遺産にしようとか色々な動きがございます。そういうものとしっかり連携を取っていただくようお願いしたいということと、結局それが自己満足になってはいけません。例えばオランダのアムステルダムスのヴァンゴッホ美術館に海外の方も押し寄せて大勢の人が来ています。やはりそういった目玉なり、誰をどう呼ぶかとか、演劇したい人が演劇を見せるだけというよりも、そういった人を惹き付ける要素を、皆競争していますので、府市も連携しながら大学だけに任せるのではないという立場を確認していただければと思います。

川田) わかりました。

児玉) 前回、川田局長から会員企業の声も聞いてきてくれという話がありました。この4月から新しい中期計画が大阪商工会議所で始まりますけれど、それをまとめるにあたって色々なディスカッションをしている中で、まちなかでイノベーションを起こすような活動をできないかという声が非常に多かったです。我々まちなかイノベーションと言っているのですが、一企業で何かイノベーションを起こすよりも、それこそオープンイノベーション、クロスイノベーションといった広がりを持って、産学連携だけではなくて産産連携もできるような、もちろん大学の施設であることはわかっているのですが、大阪大学との連携だけではなくて、そこへ来たら企業同士の連携の突破口が見つかるような、そういう仕組みがあれば広がっていくのかなという感じを、新しい中期計画をまとめるにあたっての意見交換の中で照らし合わせて感じた次第でございます。

川田) 先ほどお話しありましたように、多企業と大阪大学、多企業の中で産産連携がうまくいく可能性があるかなと私も思いました。他に意見があれば。

更家) アーチスト・イン・レジデンスというお話もありまして、海外の方に大阪にきていただくというような、アートだけでなく科学関係もそうだと思うのですが、昔、私の友人の昆虫学の先生が大阪大学に家族を連れてきたのですが、狭いところに寮があって家族の方がすぐに帰ってしまって、こういうところをここだけに限らず、総合的・包括的に戦略の中でぜひ考えていただいた方がよいと思います。大学だけでレジデンスをやるというのも予算のこともありますので、この部分は前向きに交流されたらどうかと思います。

川田) はい。他はいかがでしょうか。

阿部) 特にアートのことなのですが、昨今人口移動のことが記事になっていて、ぜひこういう活動の中で若い人が集まることに対する期待と、もうひとつは人材育成、仮に大阪、関西ですごい人材を育てると、特にアートとかクリエイターみたいな方々は、仕事になると職を求めて東京に逃げてしまうということがあるので、ぜひその人たちが関西で活躍できるよう、大阪大学に考えてくださいという意味だけではないのですけれど、幸いにも川向うにABCさんもあるので、そういったところとのタイアップ、連携みたいなことを視野において、全国から人が集まって、かつ、そこで育った人が東京に行かないような、そういう人材育成なるものを経済界としては期待しています。

更家) 大商の立場になりますが、ファッションとかデザインとか大商もメンバーの方が部会などもありやっていますので、ぜひ連携され、意見交換されたらどうかと思います。ちょっと出すすぎすみません。

児玉) 今のところで中之島に関連して言いますと、大阪の企業を中心としたファッションショーを11月にほたるまちのシアターでやったりしております、そういう事業もまちなかでやろうということになっております。

川田) 他にありますか。

香川) 今日の全体の構想のお話を伺って、総括的に感じたことを申し上げたいと思います。こういった形で大阪大学が文化・芸術・学術・技術、広い分野に向かって、それを中之島という非常に魅力の素質を秘めたところで交流発信拠点として構想をまとめられたことは非常にうれしく思いますし、こういう協議会という形で大阪府市と一緒に検討が動き出したということは我々まちみらい協議会としてもうれしく思います。大阪大学とはまちみらい協議会ともいくつかコラボさせていただいております。中之島センターもメンバーに入っておりますので。例えば芸術・文化関係では中之島夜会、防災という視点で社会学共創の拠点化ということもやっております。私どもの協議会そのものが中之島全体の未来に向かってこういう機能と構想があるのではないかというのを以前にまとめたのですけれど、今日お話を伺った中之島アゴラ構想というのは、内容的にも我々の期待していたことに沿った形で一步踏み出したということで、非常に大きな期待を抱くことになりました。特にアートの部分に非常に力を入れていることもよくわかりますし、中之島においては朝日新聞様のところに香雪美術館が入ってくる、それこそ大阪市の新美術館がございまして、そういう意味でもアート・文化の集積拠点になっていくだろうなという期待があるわけです。こういったところに大学といった視点で研究も兼ねて、かつ発信するというようなところがひとつ動き出したのが、非常に大きな意味があるかなという風に思います。それから、文化・アートだけでなくビジネスという意味においても、今日ご説明があったようなオープンイ

ノベーションといった形では国際ビジネス拠点として中之島がもう一步光るのがでてくるのではないか。いわゆるアート・文化の拠点と国際ビジネス拠点のふたつが今日の構想の中でお示しされたということ非常にうれしく思います。まちみらい協議会は地権者の協議会でありますので、こんな風になったらいいなという非常にフランクな、かつ地元根差したメンバーがいますので、これからもこういった構想が検討される中で、色々な形で我々協議会として、ソフト面が中心になるかもしれませんが、しっかり協力させていただきたいと思います。

川田) ぜひ今回の構想をより高めるために、まちみらい協議会の方々がどういったアクティビティをやっているか、連携の具体的な内容であるとか、場合によっては施設に対してこういう施設構成にしていけばよいのでは、という深める議論をまちみらい協議会の方でやっていただければ、いい計画になっていくと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いします。

香川) 協力の形が運営と企業として入ってくることが期待されていると思うのですが、このあたりは経済団体と連携しながら、協議会としてどういったことが具体的に発信できるか議論したいと思います。

川田) それでは最後に、資料2基本方針(素案)を取りまとめておりますので、事務局より説明します。

事務局)【資料1により説明】

川田) この基本方針(素案)を取りまとめて、今年度の大きな基本方針ということで整理したいと思っておりますが、何かその点に関してご意見はありますか。

阿部) 必ずしもこうすべきという意味ではないのですが、今日の議論でもまずは中之島にどんな機能を配置させようかというのがあって、その中でこの構想があるのだと思います。コンセプトの最初から大阪大学が持っている知を中之島で交差させることが大事だとか、アゴラの意義も大阪大学が候補であるという書き方になっているのを、基本方針として取りまとめるときに大阪大学の位置づけをどう書き込むのがいいのか。文学研究科を移転するのが目的でもなければ、吹田がいっぱいになったからここで産学連携をするわけでもないという話から、少し個人的に気になります。

小川) この基本方針は協議会としての基本方針ですね。大阪大学としての基本方針ではないので、そもそもこの協議会が中之島4丁目をどうするか、そのための手段なりで大阪大学ぜひ来いよ、というストーリーの方がいいとは思いますが。大阪大学が来るがありきのようスタートになっているのをもう少し付け替えるのは、大阪大学としても異議ありません。

川田) そういう方向でよろしければ、修正をして参ります。

小川) 協議会としての基本方針の以前にそもそも大阪市の土地なので、大阪大学がどうのこうのは立場上言えないので、大阪市が主導している協議会が色々な理念・目標・理想の中で大阪大学がちゃんと色々やれよというストーリーの方が、筋が通るかという気が致します。

川田) 大きく言うと中之島をどうとらえるかという大阪市のある程度方針がありますし、地権者である中之島まちみらい協議会のビジョンもあります。それを踏まえて今回この地を学術であり文化である拠点にしていこうということから発想してブレイクダウンをしていった結果、大阪大学と確認しながらこういう構想をまとめていくという手順で来ておりますので、それを協議会としてご理解いただいているのであれば、そういう流れで整理して基本方針として取りまとめたいと思います。また資料は事務局から修正させていただいてご確認させていただきます。

小川) 色々ありがとうございます。協議会が議論した結果として基本方針ができて、その中の手段なり方法論のひとつとして大阪大学という名前が出てきて、ということは結構なのですが、大阪大学の立場からいうと、あそこを大阪大学なら何に使えるのかという構想を出しているというだけで、絶対にやりますとかやれますという風にとられると困るのです。そのストーリー作りが難しく、資金のことはどうしても協議会で議論していただくことだと確認させていただきたいと思います。お金の話はやっていかないといけないと思いますけれど、一方で、今日の基本方針(素案)、大体こういう方向でいだろうと、特に中之島センターではない部分、産学共創クロスイノベーション拠点とかアート拠点というのが、協議会の基本方針としていいということになれば、産学共創をどんな分野、どんなテーマでやれるのか、大阪大学どんな種があるのか、というのは次のステップで検討をお見せできるかと思います。

川田) ではそういう方向で整理させていただきたいと思います。スケジュールに書いておりますが、来年度、美術館も実際の設計に入っていきますが、アゴラの計画についても空間的な調整も必要かと思っておりますので、先ほどの資金というよりスキームの問題も、産学連携のテーマやご関心ある企業のボリューム感によって可変していくものだと思いますので、その辺を来年度詰めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局) これをもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思ひます。本日いただきました意見を踏まえ、事務局で修正しまして、皆様にご確認させていただきたいと思ひます。